

## IV 大会主題・副主題

### 1 大会主題

自ら未来を拓き ともに生きる豊かな社会を創る 日本人の育成を目指す小学校教育の推進

### 2 副主題

ふるさとの自然・歴史・文化を愛し 他者と協働しながら豊かな未来社会を創る子どもの育成

### 3 副主題設定の理由

全国連合小学校長会は、真摯に研究と実践を積み重ね、我が国の小学校教育の充実・発展と教育諸条件の整備に多くの成果を収めてきた。その成果を踏まえ、新学習指導要領全面実施を節目として、今年度からは、研究主題を「自ら未来を拓き ともに生きる豊かな社会を創る 日本人の育成を目指す小学校教育の推進」と改め、その実現を目指し取組を進めているところである。

知識基盤社会にあつて、あらゆる分野で情報化やグローバル化が進展する今日では、社会の多様化と急激な社会環境の変化により将来の予測が困難になっている。特に、絶え間ない技術革新とともに、人工知能（AI）は、飛躍的な進化を遂げており、近い将来人類の知能を超えるという指摘もある。人としての生き方が今以上に問われる時代を目前に控え、少子高齢化、人間関係の希薄化、子どもの貧困問題など、教育環境にも関わる多岐にわたる課題が顕在化している。

こうした時代を生き抜き、子どもたちが、自ら豊かな人生や社会を拓いていくためには、社会の変化や直面する問題に主体的に向き合い関わり合っていく力と同時に、他者と協働しながら問題を解決していこうとする能力が重要である。また、子どもたちが、育ったふるさとの自然・歴史・文化を愛し、身近な地域を含めた社会とのつながりの中で学び、自らの人生や社会をよりよく変えていこうという思いをもつことは、今後、我が国が、グローバル化する社会的な課題を乗り越え未来を切り拓いていくための大きな原動力になると考える。

学校には、子どもたち一人一人のよさと可能性を伸ばし、新しい時代に求められる資質・能力を確実に育成することが求められている。家庭・地域との連携・協働により、人との関わりを通して、ふるさとの自然・歴史・文化から学ぶ教育を推進するとともに、学んだことを社会の発展へと役立てていく力を育成しなければならない。そのためには、我々校長は、新学習指導要領の理念を十分に理解し、社会に開かれた教育課程を実現するためのカリキュラム・マネジメントを進め、グローバルな幅広い視野で教育活動を創造していかなければならない。

開催地である京都は、雄大な日本海、美しい山々などの豊かな自然を生活の基盤として、長い歴史の中で培われた伝統と文化を大切にし、自由で先駆的な気風を育みながら、個性豊かで活力に満ちたまちを築いてきた。先人たちは、明治5年の学制発布に先立つ明治2年に、当時の住民自治組織を単位として、日本で初めて64もの小学校を設立した。これは、「まちづくりは人づくりから」という当時の町衆の思いによるものであり、新学習指導要領の「よりよい学校教育を通じてよりよい社会をつくる」という精神に通じる。このように子どもを地域や社会の宝として大切に育んでいこうとする文化は、今も京都の地に息づいている。また、京都には、様々な人権問題の解決に向けて考え、実践してきた歴史がある。その中で育まれた一人一人の子どもを大切にするという教育理念は、現在の教育の様々な取組の基盤となっている。このような先人の歩みを尊び、誇りとするとともに、他者と人権を尊重し合い、豊かな未来社会を創造する人材の育成を目指して学校経営を推進しているところである。

以上を踏まえ、第72回全国連合小学校長会研究協議会京都大会は、副主題を「ふるさとの自然・歴史・文化を愛し 他者と協働しながら豊かな未来社会を創る子どもの育成」と設定する。そして、これまでの研究成果を受け継ぎ、大会主題のさらなる追究を目指すとともに、学校経営の責任者である校長の果たすべき役割と指導性を究明しようとするものである。